

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
地理歴史	歴史総合	普通科	1 学年	2 単位	詳述歴史総合（実教出版）	新詳 歴史総合（浜島書店） 詳述歴史総合 徹底整理演習 ノート（実教出版）

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。
小テスト 定期考査	定期考査 発問評価 提出課題	授業態度 発問評価 提出課題

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	歴史の扉	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 ・中学校社会科における学習の成果を生かし、必修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。 	○ ○	○ ○	○
5	近代化への問い	<ul style="list-style-type: none"> ・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につけている。 ・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用して、近代化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から、情報を読みとったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。 	○	○	○
6	第1章 近代化への胎動	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解している。 ・18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角 	○		

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
		<p>的に考察し、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前近代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 			○
7	第2章 欧米の市民革命と 国民国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 ・産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代ヨーロッパの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○
9	第3章 アジアの変容と 日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・19世紀半ばのアジアと世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○
10	第4章 帝国主義の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 ・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・19世紀末～20世紀初頭の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○
11	第2編 国際秩序の変化や 大衆化と私たち 国際秩序の変化や 大衆化への問い	<ul style="list-style-type: none"> ・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につけている。 ・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用して、国際秩序の変化や大衆化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から、情報を読みとったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。 	○	○	○
12	第5章 第一次世界大戦と 大衆社会	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
		<p>表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1910～1920年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 			○
1	第6章 経済危機と 第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 第二次世界大戦前後の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○
2	第3編 グローバル化と私たち グローバル化への問い	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につけている。 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用して、グローバル化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から、情報を読みとったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。 	○	○	○
	第7章 冷戦と脱植民地化	<ul style="list-style-type: none"> 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解している。 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 1950～1970年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○
	第8章 多極化する世界	<ul style="list-style-type: none"> 石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。 アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 1970～80年代の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
3	第9章 グローバル化と現代世界	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。 ・ 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ 1989年以降の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
公民	公共	農業学科 海洋学科 ビジネス学科 生活福祉科	1 学年	2 単位	高等学校 新公共(第一学習社)	新公共ノート(第一学習社) クローズアップ公共 (第一学習社)

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
----------------	---

評価の観点と評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
プリント等提出 定期考査	発問評価 提出課題 プリント等提出	授業態度 発問評価 提出課題

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 	○	○	
5	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	<ul style="list-style-type: none"> ・行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・倫理的価値の判断において、自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向けて人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・公共的な空間における人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○ ○	○
6	第3章 公共的な空間における基本的原理	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考え、公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して多面的・多角的に考察し、表現している。 ・公共的な空間における基本的原理について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
6	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 主題1 法や規範の意義と役割 主題2 契約と消費者の権利・責任	<ul style="list-style-type: none"> 法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
7	主題3 司法参加の意義	<ul style="list-style-type: none"> 司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 政治分野の国会・内閣のしくみとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
9	第2章 主題4 政治参加と公正な世論形成 主題5 国際社会と国家主権	<ul style="list-style-type: none"> 政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 国際社会の特徴と課題について、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
10	主題6 日本の安全保障と防衛 主題7 国際社会の変化と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> 日本の安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 日本の安全保障と防衛について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 他教科で学んだ知識もふまえ、経済分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
11	第3章 主題8 雇用と労働問題 主題9 社会の変化と職業観	<ul style="list-style-type: none"> 雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 法分野の基本的な人権とも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 社会の変化と職業観に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 	○	○	○
12	主題10 市場経済の機能と限界	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
1	主題11 金融のはたらき 主題12 財政の役割と社会保障	<ul style="list-style-type: none"> 金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 少子高齢化・人口減少などの社会背景をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
2	主題13 経済のグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・経済のグローバル化について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
3	第3編 持続可能な社会づくりの 主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ内容や課題を解決するための知識を理解している。 ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 ・その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
地理歴史	地理総合	普通科	2 学年	2 単位	高等学校 新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)	新編フォトグラフィア地理図説 (東京法令出版) 地理統計 2023(帝国書院) 高等学校新地理総合ノート(帝国書院) '23 新地理の研究(啓隆社)

学習の到達目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>1 地図でとえる現代世界 地図や地理情報システムの役割・有用性などを理解し、それらを用いる基礎・基本的な技能を身に付けている。日本の位置・領域、国家間の結びつきを理解している。</p> <p>2 国際理解と国際協力 地理的環境が生活文化に影響を与えることや、多様性に富む世界で自他の文化を尊重し、国際理解を図ることの重要性を理解している。地球的課題の共通性や相互の関連性について理解している。</p> <p>3 持続可能な地域づくりと私たち 自然災害への理解を深め、地理情報を活用する技能を身につける。生活圏の地理的な課題に向けた取り組み等理解している。</p> <p style="text-align: center;">定期考査 提出課題・レポート</p>	<p>1 地図でとえる現代世界 地図や地理情報システムについて、目的や用途、等を多面的・多角的に考察し、表現している。現代世界の地域構成について、世界的視野から見た日本への考察を行っている。</p> <p>2 国際理解と国際協力 生活文化の多様性や変容の要因などを角的に考察し、表現している。地球環境問題等、地球的課題について主題を設定し、解決の方向性などを考察し表現している。</p> <p>3 持続可能な地域づくりと私たち 自然環境と災害について、地域性を踏まえた防災対策などを考察し表現している。生活圏の地理的な課題について、解決に求められる取り組みなどを考察・構想し表現している。</p> <p style="text-align: center;">定期考査、発問評価 提出課題・レポート</p>	<p>1 地図でとえる現代世界 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>2 国際理解と国際協力 生活文化の多様性、地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>3 持続可能な地域づくりと私たち 自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を展望しながら課題を主体的に追究・解決使用としている。</p> <p style="text-align: center;">授業等での活動 提出課題</p>

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4 5	<p>第 1 部 地図でとえる現代世界</p> <p>第 1 章 地図と地理情報システム</p> <p>1 節 地球上の位置と時差</p> <p>2 節 地図の役割と種類</p>	<p>① 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</p> <p>② 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>③ 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>	○	○	○
	<p>第 2 章 結び付きを深める現代世界</p> <p>1 節 現代の国家と領域</p> <p>2 節 グローバル化する世界</p>	<p>① 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。</p>	○		

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
		<p>世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。</p> <p>②世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>		○	○
5 6 7 9 10	<p>第2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解</p> <p>1節 世界の地形と人々の生活</p> <p>2節 世界の気候と人々の生活</p> <p>3節 世界の言語・宗教と人々の生活</p> <p>4節 歴史的背景と人々の生活</p> <p>5節 世界の産業と人々の生活</p>	<p>①世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。</p> <p>世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。</p> <p>②世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	○	○	○
11 12	<p>第2章 地球的課題と国際協力</p> <p>1節 複雑に絡み合う地球的課題</p> <p>2節 地球環境問題</p> <p>3節 資源・エネルギー問題</p> <p>4節 人口問題</p> <p>5節 食料問題</p> <p>6節 都市・居住問題</p>	<p>①世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。</p> <p>世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。</p> <p>②世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>③地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	○	○	○
1 2	<p>第3部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と防災</p> <p>1節 日本の自然環境</p> <p>2節 地震・津波と防災</p> <p>3節 火山災害と防災</p> <p>4節 気象災害と防災</p> <p>5節 自然災害への備え</p>	<p>①我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。</p> <p>さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。</p> <p>②地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>③自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	○	○	○
3	<p>第2章 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>1節 生活圏の調査と地域の展望</p>	<p>①生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。</p> <p>②生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目</p>	○	○	

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
		<p>して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</p> <p>③生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>			○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
公民	公共	普通科	2 学年	2 単位	詳述公共(実教出版)	詳述公共マイノート(実教出版) 最新公共資料集 2023(第一学習社) 用語集公共+政治・経済 23-24 年 版(清水書院)

学習の到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ノート提出	授業態度 発問評価 提出課題

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち	<ul style="list-style-type: none"> 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解させる。 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現させる。 よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。 	○		
5	第2章 人間としてよく生きる	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解させる。 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現させる。 よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。 	○		

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
6	第3章 社会とは何か	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と平等，個人の尊重，自由・権利と責任・義務など，公共的な空間における基本的原理について理解させる。 公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し，表現させる。 よりよい社会の実現を視野に，多面的・多角的な考察や深い理解を通して，公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。 	○	○	○
7	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格	<ul style="list-style-type: none"> 法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，憲法の下，適正な手続きに則り，法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し，個人や社会の紛争を調停，解決することなどを通して，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解させる。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現させる。 よりよい社会の実現を視野に，多面的・多角的な考察や深い理解を通して，法や規範の意義及び役割，我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
9	第2章 日本の政治機構と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> 政治参加と公正な世論の形成，地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，よりよい社会は，憲法の下，個人が議論に参加し，意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解させる。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現させる。 よりよい社会の実現を視野に，多面的・多角的な考察や深い理解を通して，司法参加の意義，政治参加と公正な世論の形成，地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
10 11	第3章 現代の経済社会	<ul style="list-style-type: none"> 雇用と労働問題，財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化，市場経済の機能と限界，金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に，公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現させる。 よりよい社会の実現を視野に，多面的・多角的な考察や深い理解を通して，雇用と労働問題，財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化，市場経済の機能と限界，金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
12	第4章 経済活動のあり方と国民福祉	<ul style="list-style-type: none"> 多様な契約及び消費者の権利と責任，職業選択，雇用と労働問題，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現させる。 よりよい社会の実現を視野に，多面的・多角的な考察や深い理解を通して，多様な契約及び消費者の権利と責任，職業選択，雇用と労働問題，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
1	第5章 国際政治の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> 国家主権，領土（領海，領空を含む。），我が国の安全保障と防衛，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり，国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解させる。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現させる。 よりよい社会の実現を視野に，多面的・多角的な考察や深い理解を通して，国家主権，領土（領海，領空を含む。），我が国の安全保障と防衛，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題と 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
		<p>いった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>			
2	第6章 国際経済の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解させる。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。 ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○ ○	 ○	 ○
3	第3編 持続可能な社会 づくりの主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について、必要な知識を習得している。 ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができる。 ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について問いを見だし、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 ・よりよい社会の実現を視野に、それぞれが選択した現実社会の諸課題に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から、それぞれが選択した現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○ ○	 ○	 ○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
地理歴史	歴史総合	農業科学科 海洋科学科 ビジネス科 生活福祉科	2学年	2単位	私たちの歴史総合 (清水書院)	明解歴史総合図説シンフォニア (帝国書院) 私たちの歴史総合ワークシート (清水書院)

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
----------------	--

評価の観点と評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。
小テスト 定期考査	定期考査 発問評価 提出課題	授業態度 発問評価 提出課題

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	第1編 歴史の扉 第1章 歴史と私たち 日本とスポーツの歴史 第2章 歴史の特質と資料 8月15日とそれぞれの「終戦」	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とスポーツの歴史を基に、日本と世界の歴史が繋がっていることを理解するとともに、諸資料を活用している。 ・スポーツと近代化、大衆化、グローバル化などの歴史との関連を考察し、表現している。 ・1945年8月15日の「終戦」に関する複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 ・諸資料の活用を手がかりに、8月15日の「終戦」の意味や意義について、主体的に追究しようとしている。 	○	○	○
5	第2編 近代化と私たち 第2章 結びつく世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解するとともに、それらに関する諸資料を活用している。 ・18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解するとともに、それらに関する諸資料を活用している。 ・工業化と世界市場の形成に関して、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 	○	○	○
6	第3章 国民国家と明治維新	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解するとともに、それらに関する諸資料を活用している。 ・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
		義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。			
7	第3編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第2章 第一次世界大戦と大衆社会	<ul style="list-style-type: none"> 総力戦となった第一次世界大戦の特質・展開や惨禍、第一次世界大戦後の国際協調体制が構築された経緯やその展開の特徴、日本とアジア及び太平洋地域の関係を理解している。 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦や社会主義革命が大戦後の世界に与えた影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、社会主義革命の意味や影響、大戦後の日本とアジア及び太平洋地域の関係の変化や軍縮条約・不戦条約など国際協調体制の特徴などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 国際連盟やその後の国際連合などの国際組織、国際的な軍縮条約や不戦条約などの国際法の意義を理解し第一次世界大戦と国際社会に関して、国際社会の一員として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 	○	○	○
9		<ul style="list-style-type: none"> 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達など大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解するとともに、それらに関する諸資料を活用している。 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 議会政治に基づく政党内閣制や国家や社会の在り方を模索する多様な思想や運動とその主体の意義に関して、大量消費社会の功罪、教育の重要性や世論形成におけるマスメディアの重要性を認識し、民主主義社会・資本主義社会の一員として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 	○	○	○
10	第3章 経済危機と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策、第二次世界大戦の勃発などを基に、国際協調体制の動揺と崩壊、国際秩序の変容につながった当時の政治制度の特性や国際情勢、第二次世界大戦の展開を理解している。 世界恐慌への日本を含めた各国の対応の意義やその限界に関して、国際社会の一員として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる現代的な諸課題との関わりを主体的に追究しようとしている。 	○		○
11		<ul style="list-style-type: none"> アジア太平洋戦争の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解するとともに、それらに関する諸資料を活用している。 アジア太平洋戦争の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響、福祉面での国家の積極的な介入の方向性などの連続性などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 核兵器使用を含む戦争の惨禍がもたらした影響と平和で民主的な国際社会の実現に努める意義に関して、国際社会の一員として、過去の日本とアジア諸国との関係を認識し、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 	○	○	○
12	第4章 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 ナショナリズム	<ul style="list-style-type: none"> ナショナリズムの特色、ナショナリズムと戦争、ナショナリズムと国家、現代のナショナリズムに着目して、ナショナリズムと国際秩序の変化や大衆化について多面的・多角的に考察し、表現している。 ナショナリズムと国際秩序の変化や大衆化のもたらす現代的な諸課題を主体的に追究しようとしている。 		○	○
1	第4編 グローバル化と私たち 第2章 冷戦と世界経済	<ul style="list-style-type: none"> 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解するとともに、それらに関する諸資料を活用している。 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
2	第3章 世界秩序の変容と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの諸地域の経済発展の背景、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響、冷戦の変容と終結の背景などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・アジアの諸地域の経済発展、資源・エネルギーと地球環境問題、冷戦の終結が世界経済に及ぼした影響などに関して、グローバル化する国際社会の一員として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・民主化の進展、地域統合の拡大と変容、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解するとともに、それらに関する諸資料を活用している。 ・民主化や地域統合の背景と影響、経済の自由化や技術革新の影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○
3	第4章 現代的な諸課題の形成と展望 移民	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的経緯を踏まえて現代的な諸課題を理解するとともに、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 	○	○	○

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理 歴史	地理B	普通科	3 (継続)	3	新詳地理B (帝国) 新詳高等地図 (帝国)	新編地理資料(とうほう) 地理統計 2021(帝国)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、また歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
---------------------	---

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
Ⅱ 現代世界の系統地理的考察 2 資源と産業 3 人口、村落・都市 4 生活文化、民族・宗教	<ul style="list-style-type: none"> 資源の生産と消費 第3次産業 交通・通信 世界の貿易と経済圏 	<ul style="list-style-type: none"> 世界のエネルギー・鉱産資源の分布や生産と消費について、その特色と基礎的知識を得る。 さまざまな工業の特色と立地条件について理解する。 第3次産業の発達を概観し、観光業について知る。 交通網と情報、通信における各国の特徴を把握する。 世界と日本の貿易それぞれの現状と課題を考察する。 世界の人口問題について現状と課題を理解する。 村落・都市の形態による分類と特色、歴史的にみた発達について理解する。 衣食住の地域差を、自然条件や社会条件から考察する。 生活文化の地域的差異と画一化について考察する。 民族と宗教の分布概要や宗教の特徴を理解する。 「国家」の概念について理解を深める。 民族や宗教に起因すると言われる対立等を把握する。
	<ul style="list-style-type: none"> 人口問題 村落と都市 衣食住 	
	<ul style="list-style-type: none"> 生活文化 民族と宗教 現代世界の国家 民族領土問題 	
	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア 東南アジア 南アジア 西アジア中央アジア 北アフリカサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア 	
Ⅲ 現代世界の地誌的考察 1 現代世界の地域区分 2 現代世界の諸地域 3 現代世界と日本		<ul style="list-style-type: none"> それぞれの国や地域の自然環境、歴史、産業、他国との関わりを地誌的に考察する。 州・大陸を地誌的にとらえる手法を身につけることで、自然や歴史の共通点を学び、地域特性の差異について理解する。

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 地理の系統的知識と地誌的知識を身に付け、総合的観点から現代世界をとらえることができる。 地表面に具現化された事象における、自然と人間との因果関係を多角的に分析し、現代世界における課題の解決方法を考察し、判断する。 地形図や地図・景観写真を読みとり、地理事象を理解する。 地理的事象のメカニズムや人間との関わりについて関心を持ち、意欲的に課題を追究しようとする。 1、2学期の評価は考査の得点と課題提出点、受講状況、発言をもとに100点法で評価する。
-----------------	--

4 学習のアドバイス

<p>2年生の自然環境や世界各国の産業等の学習をベースに、村落・都市や人口、各国の結びつき等3年生の学習を組み立て、最後は地誌学習で総括する流れになっています。模試等でも2年生の学習が総得点の40%を下ることはありません。2年次に学習した自然環境、産業等の復習をしながら、より新しい知識・話題を吸収できるよう心がけましょう。</p>
--

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理歴史	日本史B	普通科	3(継続)	3	改訂版 詳説日本史 (山川出版社)	最新日本史図表(第一学習社) 必携日本史用語(実教出版)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島で展開した歴史を、諸外国や周縁世界との関係を視野にいれながら理解する。 ・日本の文化と伝統がどのように育まれてきたかについての認識を深める。 ・日本人として必要なこれらの知識をふまえて、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる資質を養う。
---------------------	--

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
I 原始・古代 1 日本文化の あけぼの 2 律令国家の形成 3 貴族政治と 国風文化	原始社会 ヤマト政権の成立 飛鳥時代 律令体制の成立 奈良時代 摂関政治 国風文化	<ul style="list-style-type: none"> ・原始時代の日本列島における道具や生活様式の特徴や発展について理解する。 ・国家の形成と律令体制の確立の過程を、東アジア世界との交流に着目しながら理解する。 ・古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽について理解する。
II 中世 4 中世社会の成立 5 武家社会の成長	鎌倉幕府 執権政治 室町幕府 戦国争乱	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運について理解する。 ・中世社会の多様な展開や武家・公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽などについて理解する。
III 近世 6 幕藩体制の確立 7 幕藩体制の展開 8 幕藩体制の動揺	織豊政権 幕藩体制 経済の発展 幕政の改革 幕政の衰退	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ世界との接触とその影響を理解する。 ・織豊政権、幕藩体制の特質について理解する。 ・幕府支配の方針転換とその背景を理解する。 ・諸産業、文化の発展を理解する。 ・幕藩体制の動揺と一連の幕府改革の関連を理解する。
IV 近代・現代 9 近代国家の成立 10 二つの世界大戦 とアジア 11 占領下の日本 12 高度成長の時代 13 激動する世界と 日本	明治維新 自由民権運動 条約改正 第一次世界大戦 ワシントン体制 第二次世界大戦 民主化の推進 占領政治の転換 高度経済成長 国際経済体制の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・開国と幕末動乱および明治維新の考察を深め、経緯について理解する。 ・自由民権運動から憲法制定、議会開設までの経緯を理解する。 ・日本の条約改正交渉の経緯を理解する。 ・日本における資本主義の発展過程を考察する。 ・第一次世界大戦前後の日本の外交・軍事上の行動を理解する。 ・政党政治、大正デモクラシーの思潮を理解する。 ・15年戦争の原因、実態、内外への影響などを考える。 ・戦後改革の意義を理解する。 ・冷戦が日本に与えた影響を考える。 ・日本の戦後発展の経緯を理解する。 ・現代の日本を取り巻く様々な課題を認識する。

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断できるか。 ・定期考査の成績をもとに小テスト、平常の学習態度、課題の提出状況を加えて総合的に判断する。
-----------------	--

4 学習のアドバイス

日本史の学習で重要なことは、歴史の流れと因果関係を理解することです。人名や事項・事件名などの歴史用語をただ暗記しようとしても、歴史はなかなか理解できません。なぜそうなるのか、なにが原因なのかを考えることにより、歴史の流れや関連が理解でき、用語も自然に頭に入ってきます。授業では、常に歴史の流れを意識して、臨んで下さい。

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理 歴史	世界史 A	農業科学科 海洋科学科 ビジネス科 生活福祉科	3	2	明解 世界史 A (帝国書院)	アカデミア世界史 (浜島書店) 明解世界史 A ノート (帝国書院)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	「世界史 A」とは、世界の歴史の大きな流れと特質を、近現代史を中心に学習する科目です。世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけることが目標です。
---------------------	---

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
1 部 世界の一体化と日本	1 章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり 1 節 東アジアの文明 5 節 ヨーロッパの文明 2 章 一体化に向かう世界 2 節 大航海時代と新たな国家の形成 3 章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1 節 ヨーロッパとアメリカの諸革命 2 節 自由主義・ナショナリズムの進展 4 節 東アジアの大変動	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域世界の社会・文化の特質を、風土や生活、言語や思想などの視点から考察し理解する。 ・東アジアおよびヨーロッパを中心に、諸民族の交流の様子を理解する。 ・16 世紀以降の、ヨーロッパ主導による世界の一体化と、それに伴って世界が変わっていく様子を考察し理解する。 ・ルネサンスや宗教改革などの政治・文化の新しい気運について考察し理解する。 ・18 世紀以降、欧米諸国に市民社会が誕生し、国民国家の形成が進行したことを考察し理解する。 ・ウィーン体制下での自由主義や国民主義の高まりが、イギリスなどの諸改革やドイツなどの国民国家形成運動の原動力となったことを理解する。 ・アジア諸国内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によってアジア諸国の社会に引き起こされた変貌をとらえながら、19 世紀の世界一体化とその特質を考察し理解する。
2 部 地球社会と日本	1 章 現代社会の芽生えと世界大戦 1 節 現代につながる社会の形成 2 節 第一次世界大戦がもたらしたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・列強の世界分割をめぐる競合と帝国主義時代の世界の一体化と社会の変容を考察し理解する。 ・社会主義運動や社会主義国家の誕生と出現した意味を、考察し理解する。 ・第一次世界大戦の原因、性格、戦争がもたらした世界の変化をとらえる。 ・戦間期に国際社会の枠組みが大きく変化したことを考察し理解する。 ・世界恐慌に対する諸国の対応策をとらえ、全体主義の台頭が国際秩序に危機をもたらしたことを考察し理解する。

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	近現代史について、我が国と関連づけながら理解し、その知識を身につけることができたか。また、その知識をもとに人類の課題を多面的・多角的に考察しようとしているかにより評価する。 評価は、定期考査の得点と課題提出点、受講状況、発問をもとに100点法で評価する。
-----------------	--

4 学習のアドバイス

世界史では、日本を含む世界の様々な地域の歴史を幅広く学習します。また、授業で扱う内容は、高校卒業後に一般教養として知っておくべき事柄です。教科書や資料集をよく読み、時代の流れをつかみ、多くの知識を吸収できるように努めましょう。
